令和８年 10 月定例会記者懇談会
日時：令和８年 10 月 21 日（水）午後２時～
場所：議長執務室

１　今定例会を振り返って

○　**議長**：それでは、「議題１　今定例会を振り返って」、主な出来事を紹介します。

今定例会は、古謝玄太知事就任後初めての議会で与野党が入れ替わり、議長が中川前議長から私に交代したことなど、記者の皆様から見た本会議場の様子もだいぶ変わったとお感じになられたのではないかと思います。

加えて、高屋優議員と座波一議員が補欠選挙で御当選されました。お二人は今回、本会議での質問の機会はありませんでしたが、今後の活躍を期待しております。

代表質問及び一般質問においては、それぞれ７名、合計 14 名の議員が質問に立ち、主に知事公約に関して活発な議論が行われました。

知事からは、予算議案、議決議案、決算等、合わせて 40 の議案が提出され、明日から行われる決算審査に付された決算 24 件と決算に関連する議決議案２件を除き、予算議案１件は全会一致で原案可決、議決議案は全会一致 13 件、賛成多数１件で可決されております。

その他、各常任委員会、２つの特別委員会において委員長の交代が行われ、各委員会において、新たな体制で議案審査等が行われました。

議長として初めての議事進行でしたが、議長席から議席に座る全議員の表情が想像以上にはっきり見えたこと、また、答弁を行う執行部席のピリピリとした緊張感をじかに感じたことが印象的でした。

引き続き、公平公正な議会運営に徹し、県民の皆様から「県議会が動いた」「沖縄が変わった」「暮らしがよくなった」と実感していただける県議会を目指します。

（２）意見書・抗議決議について

10 月９日の本会議において「米海兵隊員による女性強盗殺人事件に関する意見書及び抗議決議」を賛成多数で可決いたしました。10 月 20 日には派遣議員５名及び同行議員３名が内閣総理大臣等６機関に意見書を提出してまいりました。今月 27 日には県内要請を行う予定です。

次に「議題２　若者議会について」ご報告します。

県議会では、「開かれた県議会」の実現を目指し、次代を担う主権者としての政治参加意識や地域社会への参画意識を育むため、琉球大学と連携した「若者議会」を実施しております。

今年から本格的に実施するものであり、琉球大学の後期・専門科目である「地方自治論」を受講する学生の皆さんと県議会から派遣される６名の議員が一緒に沖縄県の地域課題等についてのグループワークを行います。

去る 10 月 13 日の代表質問の際には、講義の一環として学生の皆様に本会議を傍聴していただいたところです。

今後、学生の皆様には、グループワークを通して議員と意見を交わしながら政策研究を行い、来年１月には、本会議場において全議員を前に政策提言を行っていただく予定です。沖縄の未来を切り拓く実り多き学びとなることを期待しています。

実施する際は、報道各社の皆様にも奮って取材いただきますよう御協力お願いします。

発表は以上です。

２　質疑応答

○　**記者**：議長席から議席に座る全議員の表情が想像以上によく見えたとのことでしたが、どのような印象を受けましたか。

○　**議長**：よく発言されている方もおり対照的だと感じました。議長席に着けば行司役に徹し、議事進行を第一に考えますので、少しうるさいなと思いながら見ておりましたが、３、４日前は私自身もそうだったと思い返しました。やはり議長という立場は大変なものだなと実感いたしました。

○　**記者**：先日の議会運営委員会で、本会議中に歩き回ったり席を離れたりする議員が多いので対応してほしいという意見がありましたが、いかがでしょうか。

○　**議長**：今回はそうした場面はなかったのではないかと思います。歩いていた本人が議長席に座っておりますので、当面の間はそういうことはないと考えております。

○　**記者**：代表質問の際、山内末子議員が「傀儡」という言葉を使用し、それについて多くのヤジも飛んでいましたが、議長席からはどのような気持ちでご覧になっていましたか。

○　**議長**：最初は発言が聞き取れませんでした。再度確認しようした際、自民会派側から不適切だとの指摘がありました。私自身もこの言葉をどのように解釈すべきか、不穏当発言に該当するのかと考え、山内末子議員に対して「もう少し柔らかい表現に言い換えられないか」と打診いたしました。
しかし真意を確認したところ、「政府の言いなりはならないですよね」という趣旨の発言であったので、許容範囲内であると判断いたしました。知事としても、当然そのようなことはないと答弁されれば済む話であったと思います。
私自身の理解不足な点もありましたので、自民会派側にもその

旨をお話したところです。

○　**記者**：古謝知事の就任後初となる定例会において、議長ご自身は議長席から答弁の様子をご覧になっていたかと思いますが、知事の答弁姿勢はどのように映りましたか。

○　**議長**：今議会の開会に先立ち、米海兵隊員による女性強盗殺人事件への対応について知事にあらかじめ申し上げました。ぶら下がり取材の場であっても、県民の皆様に不快感を与えるような表情が見受けられたことについて、野党側・与党側の双方から指摘が入るであろうとお伝えしました。なぜそのように申し上げたかと言いますと、私自身が野党議員だった頃、前知事に対して辺野古沖での船舶転覆事故の際の対応を紛糾したり、基地問題に関する有識者会議で「ゼレンスキーです」と発言されたことに対して厳しく追及したことがあったからです。そのため、議長として事前に強くお話しさせていただきました。

本会議では、知事自らがしっかりと誠意をもって反省の言葉を述べられました。素直に受け止めて対応された点が、まず大きな一点だと思います。 もう一点は、各議員の質問に対して、通常であれば部長級が答弁するような内容であっても、答弁可能な範囲で知事自らが答弁されていた点です。これまでの県政12 年間の中ではあまり見られなかった姿勢だと感じました。初議会であり 42 歳という若さではありますが、官僚経験を含め、さまざまな経験を積み学んできた人物であるということを改めて実感いたしました。

以上